

# 主観的・間主観的意味の発生をめぐって

—日本語アスペクト形式「テシマウ」「チャウ」を例に—

張 又華

京都大学大学院

chouyouka0426@yahoo.co.jp

## 1. はじめに

日本語アスペクト形式「テシマウ」には、縮約形「チャウ」が存在する。従来の研究では、二つの形式を区別せず、「テシマウ（チャウ）」を対象に記述や分析を行なった研究が多く見られる（金田一 1955, 高橋 1969, 吉川 1973, 寺村 1984, Ono 1992, 鈴木 1998, 金水 2002）。このなかで、寺村（1984）では、東京方言における「チャウ」の独自の用法を、また、梁井（2003）でも「テシマウ」と入れ替えにくい「チャウ」の用法を指摘している。しかし、そうした「チャウ」の用法と、そのアスペクト的意味とがどのように関わるかについては先行研究では言及されていない。本稿は、「チャウ」の用法を記述した上で、「チャウ」の持つ話者の感情・評価的意味がその文法的意味（アスペクト的意味）<sup>1</sup>との関連性を明らかにすることを目的とする。

## 2. 先行研究の検討

### 2.1 「テシマウ」に関わる先行研究

「テシマウ」は、<完了>のアスペクト的意味を持ち、また<残念>、<不本意>、<予想外>などの話者の感情・評価的意味も持つ文法形式である（金田一 1955, 高橋 1969, 吉川 1973, 寺村 1984, Ono 1992, 鈴木 1998, 金水 2002）。

(1) たくさんの書類があったが、がんばって3時までに全部書いてしまった。

（アスペクト的用法）

(2) 財布を落としてしまった。（話者の感情・評価的用法）

（日本語記述文法研究会編 2007: 46）

このなかには、アスペクト的意味と話者の感情・評価的意味を区別せずに記述している先行研究もあれば（金田一 1955, 高橋 1969, 吉川 1973）、両者を区別して記述を行ない、話者の感情・評価的意味はアスペクト的意味から派生したとする研究もある（寺村 1984, Ono 1992, 金水 2002）。このなかで、Ono (1992) は、意味の持続性の観点から、文法化した「テシマウ」と「テオク」のアスペクト的意味の分析を行なっている。そして、話者の感情・評価的意味もその元の動詞の語彙的意味から生じたと主張している。本研究では、アスペクト的意味と話者の感情・評価的意味の関連性を論じることを目的とするため、寺村（1984）と金水（2002）の考え方に基づいて考察を行っていく。

©張 又華、「主観的・間主観的意味の発生をめぐって」

『言語科学論集』、第 17 号 (2011)、pp.131-142.

### 2.1.1 寺村 (1984)

寺村 (1984) では『テシマウ』は、基本的に、行為・動作、できごとが完了したことを特に強調する表現である (寺村 1984: 152) と述べられている。継続した動きであれば、行為が終点に達したことを意味する。一方、瞬間的な動きであれば、「テシマウ」が共起すると起こったことに対して「もはや前の状態に戻れない」という話者の感情を表す。ところが、「テシマウ」がアスペクト的意味を表すのかは、前接する動詞の性質によって変わるが、二つの意味が複合的に絡み合った表現も存在する。したがって、単に動詞の性質によって意味の相違を判断することは難しい。ただし、寺村 (1984) の話者の感情・評価の意味がアスペクト的用法から派生したという考え方は、アスペクト的意味と話者の感情・評価の意味を区別して記述することが必要であることを示唆している。

### 2.1.2 金水 (2002)

アスペクト的意味に関して、金水 (2002) では「テシマウ」は限界をあえて乗り越えるという意味を付け加えると指摘されている。前接動詞が限界動詞であれば、限界達成の意味が強調されるのに対し (例 3)、非限界動詞であれば、限界達成は終了限界 (= 過程の終わり) あるいは開始限界 (= 過程の始まり) の両方の可能性を持っている (例 4)。

- (3) a. 田中さんは夕食を作ってしまったている。(達成後の状態)  
 b. 田中さんは夕食を作っている。(進行)

- (4) (子供が月見だんごをつまみ食いするのを陰で見ている)  
 あっ、食べちゃった<sup>3</sup>あっ、食べた (どちらも食べ続けてよい)

(金水 2002: 67)

話者の感情・評価の意味に関しては、「ある出来事が限界点を超えて達成されるという局面を強調するということは、もう後戻りできないという含意を生じさせる (金水 2002: 68)」と述べられている。

## 2.2 「チャウ」に関わる先行研究

「テシマウ」の縮約形「チャウ」は、東京方言において使用されており、「チャウ」独自の用法があると指摘されている (寺村 1984)<sup>2</sup>。このほか、「チャウ」に関わる先行研究として Ono and Suzuki (1992) や梁井 (2003) が見られる。

### 2.2.1 Ono and Suzuki (1992)

Ono and Suzuki (1992) では、会話中の「テシマウ (チャウ)」を対象に記述が行なわれている<sup>3</sup>。「テシマウ (チャウ)」は、話者の消極的態度的ほかに (例 5)、話者の積極的態度 (guiltily positive attitude) も表せるという点が興味深い (例 6)。

- (5) 勝手に自分だけ考えちゃってさ。 (Ono and Suzuki 1992: 207)  
 (6) あたしさ、高校生にさ、渋谷のさ、109の前でさ、なんぼされちゃった。  
 (ibid.: 209)

「テシマウ」と「チャウ」に関わる研究として、はじめて会話データを用いた点においては Ono and Suzuki (1992) は評価できる。しかし、「テシマウ」と「チャウ」を区別せず記述することは妥当であろうか。(6) は、「テシマウ」と入れ替えてみると、Ono and Suzuki (1992) が指摘した話者の積極的態度が消極的態度に変わる。これは、「チャウ」と「テシマウ」が異なった機能を持つことを示している。したがって、「チャウ」と「テシマウ」を区別して論述する必要がある。

### 2.2.2 梁井 (2003)

梁井 (2003) では、「チャウ」の独自の意味・用法に、プラス思考用法をはじめ、揶揄用法や談話用法があると指摘している<sup>4</sup>。

- (7) ボランティア「野口さん、退院おめでとうございます」と、花束を渡す。  
 野口「どうもありがとうございます。お世話になりました。(子供たちに)も  
らっちゃった」 (梁井 2003: 69)
- (8) 自転車を降り、ニヤニヤしながらジョーに近づいてゆく花田。  
 花田「なんだ、なんだ、こんな所で抱き合っちゃってよ!」 (ibid.: 70)
- (9) 美奈子「ありがとう、でも六時に有楽町なの、外人さんの接待... フランス人  
 のご夫婦」  
 真理「(憧憬) ボンジュールとか言っちゃうわけね?」  
 美奈子「そろそろ、ボンソワールかな」と、腕時計を見る。 (ibid.: 71)

(7) は、「チャウ」が話者の負の感情だけではなく、正の感情にも用いられることを示している。この話者の正の感情は、寺村 (1984) で言及されている関東方言の「チャウ」によって表される話者の感情に似ている。そして、Ono and Suzuki (1992) で指摘されている話者の積極的態度と共通する部分があるように思われる。つまり、話者の負の感情に結びつきやすい「テシマウ」とは異なり、「チャウ」には話者の正の感情に結び付く傾向が見られる。梁井 (2003) は、「チャウ」を一つの独立した形式と見て研究をさらに進めたが、話者の感情・評価の意味に焦点が当てられているため、アスペクトの意味とはどのように関わるのかについての説明が欠けている。

### 2.3 先行研究の問題点

「テシマウ」と「チャウ」に関わる先行研究を踏まえて、次の2点を指摘したい。

まず、「チャウ」に関わる先行研究は、全体的に話者の感情・評価の意味に注目し、アスペクト的観点からの考察が欠けている。「テシマウ」は基本的に、アスペクト的意味と話者の感情・評価の意味が複合的に絡み合う表現であり、その二つを明確に分けることはできない。しかし、「テシマウ」と「チャウ」に現れる話者の感情・評価の意味における違いは、それぞれのアスペクト的意味と関連し合うと考えられる。よって、「チャウ」をアスペクト的な観点から記述する必要がある。

また、「チャウ」の用法には、話者の感情・評価の意味に関して、「テシマウ」のように話者の負の感情を表すのではなく、正の感情を表す表現が目立つことが観察された。これにより、なぜ「チャウ」には話者の正の感情・評価の意味が現れるのかについて、その原因を明らかにする必要がある。

このように、「チャウ」のアスペクトを明らかにしたうえで、「テシマウ」と「チャウ」の感情・評価的用法における違いを説明する必要がある。本稿では、次節で「チャウ」のアスペクト的意味-行為の部分的達成に基づき、「テシマウ」と「チャウ」の話者の感情・評価的用法における違いを明らかにする。

### 3. アスペクト的用法の確認

#### 3.1 「テシマウ」のアスペクト的用法—行為の全体的達成

「テシマウ」は、行為・出来事全体に焦点が当てられているので、行為・出来事の展開過程に焦点を当てることができない。

(10) りんごを三つ食べてしまった。

(11) お客さんが待合室から出てしまつたら、襖を閉めてください。

(12) (料理番組で複数の材料が揃えて、一気に入れて炒める場合)  
一遍で加えてしまいます。

(10) は、「りんごを三つ食べる」という行為が達成され、(11) は、「お客さんが待合室から出る」という事態が達成され、(12) は、「(食材)を入れる」という事態が達成されたことを意味する。つまり、「テシマウ」は、行為・出来事の終わりの段階に焦点が置かれる形式である。このように、本稿では「テシマウ」のアスペクト的意味を<行為・出来事の全体的達成>と規定する。

なお、金水 (2002) は非限界動詞の場合、限界は終了限界と開始限界の両方の可能性があるとして述べ、非限界動詞の開始限界の達成の例として「あっ、食べちゃった(その後続けてよい)」を挙げている。確かに、「食べちゃった」の場合は開始限界の達成という解釈が可能だが、「食べてしまった」の場合は開始限界の達成という解釈は不可能である。金水は開始限界の達成という意味を動詞の性質(限界動詞か非限界動詞か)に由来するものとしているが、これは「チャウ」に帰されるべき意味であり、ここでも、「テシマウ」「チャウ」を区別せず一括して扱うことが妥当ではないことが確認できる。

### 3.2 「チャウ」のアスペクト的用法—行為の部分的達成

「チャウ」の部分的達成解釈が可能な場合は、行為の繰り返しの過程が内在する動詞に限られると考えられる。具体的にいえば、通常、「食べる」、「飲む」、「読む」といった動詞は、「何度も食べる・飲む・読む」ことを含意しており（「ご飯を食べる」と言う場合、一口だけ食べるという解釈も可能だが、ご飯を全部食べるという解釈の方が一般的である）、行為の繰り返しの過程が内在している。このような動詞の場合、「テシマウ」は、基本的に行為の繰り返しによって形成される「全体の行為」の達成にしか焦点を当てることができないが、「チャウ」は繰り返される行為の一つ（恐らく、始めの一つ）に焦点を当てることが出来ると思われる。

- (13) a. ご飯を食べてしまった。(部分的行為達成の解釈は不可)  
 b. ご飯を食べちゃった。(部分的行為達成の解釈可)

(13a) は、「ご飯を食べる」という行為が全体的達成にしか解釈できないのに対し、(13b) は、一口食べてもその行為が達成されると解釈できる<sup>5</sup>。ただし、行為の繰り返しが想定されないような動詞の場合、「チャウ」の部分的行為の達成という解釈が出てこない。

- (14) a. 棚が倒れてしまった。(部分的行為達成の解釈不可)  
 b. 棚が倒れちゃった。(部分的行為達成の解釈不可)

このように、「チャウ」は、＜行為の全体的達成＞や＜行為の部分的達成＞両方に解釈できるのに対して、「テシマウ」は、＜行為の全体的達成＞にしか解釈できない。これは、話者の感情・評価的用法や語用論的用法にも影響を及ぼすので、次節で詳しく論じることにする。

## 4. 話者の感情・評価的用法

### 4.1 話者のプラス感情評価

「テシマウ」は話者の感情・評価を表すが、特に話者の負の感情と結びつきやすいと思われる。「テシマウ」が表す話者の感情・評価がプラスかマイナスかという問題については、先行研究においても論じられてきた。鈴木 (1998) では、話者にとってそれが望ましい事態であれば、正の感情・評価に、逆に望ましくないことであれば、負の感情・評価に読み取れると分析されている。また、感情評価が正か負かは、文脈によって決められるという主張も見られる (金水 2002)。確かに、感情・評価的意味の正負は話者が持つ前提や文脈に関わるようであるが、話者の前提や文脈と関係なく「チャウ」が話者のプラス的感情を表せるという指摘もある (寺村 1984、梁井 2003)。例えば、次の例では、「テシマウ」に置き換えると、話者の「ワインをいただく (飲む)」という事態に対する負の感情評価が表されるのに対して、「チャウ」では正の感情が表されることを示している。

## (15) (旅行番組。ゲストの発言)

- a. ゲスト: 美味しいワインをいただきちゃいました。 (「旅サラダ」)  
 b. ゲスト: 美味しいワインをいただいてしまいました。

この例では、「チャウ」が「テシマウ」とは違って、話者の正の感情・評価を表せることを示している。したがって、本稿では、「チャウ」が話者の正の感情・評価的意味を表すのは、そのアスペクト的意味—行為・出来事の部分的達成に由来すると考える。「テシマウ」は行為・出来事の全体的達成を意味し、行為・出来事の終わりに焦点が置かれるため、「もう元に戻れない」という含意が含まれることとなり、発生した事態に対する話者の負の感情・評価を表す。一方、「チャウ」は行為・出来事の部分的達成にも焦点が当てられているので、事態の終わりに焦点を当てず、上述した「もう元に戻れない」という含意はない。つまり、「チャウ」は、話者の正の感情評価を表すというより、話者の負の感情を弱めると考えられるだろう。

## 4.2 行為達成の難易度

「テシマウ」が用いられる場合、話者はある事態を実現しにくいものとして捉えている (鈴木 1998)。

- (16) (なかなか片付きそうもない仕事だが) なんとかがんばって片付けてシマオウ。  
 (実現しにくい) (鈴木 1998: 53)

事態が実現しにくい、すなわち達成しにくいということは、何らかのもの、あるいは形のない力に妨げられて、その行為・出来事を達成するために、あえて力を加えないと、達成することができないということである。次の「テシマウ」が用いられた例は、話者が「山頂まで登る」や「マンションを買う」ということを達成しにくい事態として捉えていることが分かる。

- (17) a. 三日間をかけて山頂まで登った。  
 b. 三日間をかけて山頂まで登ってしまった。

- (18) a. とうとうマンションを買った。  
 b. とうとうマンションを買ってしまった。

一方、「チャウ」をスタイルの側面から考えた場合、何らかの「口調の軽々しさ」が認められる、と考えられるかもしれない。しかし実際にはこの両者の使い分けはその種のスタイルの違いだけではない。実際には話者が、その行為の達成をどのような難易度で捉えているかという違いにも関わっている。次の例では、「テシマウ」と比較して、「チャウ」と共起している事態の方が、行為達成の難易度という点から見て、より容易に達成できる

事態として捉えられていることが観察できる。

- (19) a. フェラーリを買っちゃった。  
 b. フェラーリを買ってしまった。

- (20) a. そんな彼なら捨てちゃえば?  
 b. そんな彼なら捨ててしまえば? (映画名)

同じ「高級車を買う」場合を考えると、(19a) は、嫌味に感じられるほど話者にとって達成しやすい行為だと感じられる。(20a) は、「彼を捨てる」ということは話者にとって達成しやすい行為として捉えられていることが観察できる。

では、なぜ「テシマウ」と「チャウ」の違いだけで、このような差が出るのだろうか。それは、「テシマウ」と「チャウ」のアスペクト的意味に関係があると考えられる。「テシマウ」は、行為の全体的達成のみを認めることで、その行為が達成されるまで、時間や労力がかかると想定され、達成されにくいという含意が生まれる。これに対して、「チャウ」は部分的達成の解釈が認められているため、その行為が簡単に達成されるという含意が生まれると考えられる。

このように、話者のプラス感情評価であれ、話者にとっての事態の難易度であれ、「テシマウ」と「チャウ」に現れる話者の感情・評価的意味の違いは、それぞれのアスペクト的意味と関連し合うことを明らかにした。次節では、語用論的用法における「テシマウ」と「チャウ」の違いが現れている例を取り上げながら、分析を行なっていく。

## 5. 語用論的用法

### 5.1 現象の確認

3節で既に述べているが、「テシマウ」は、行為・出来事的全体的達成に焦点を当てるのに対し、「チャウ」は、全体的達成だけではなく、部分的達成の解釈を持つことが明らかになった。そのため、アスペクト的意味においては、(21b) は「飲み切る」の解釈に読み取れるのに対し、(21a) は「飲み始める」と「飲み切る」両方の解釈ができる。

- (21) a. (お酒を) どうぞ飲んじゃってください。(飲み始める、飲み切る解釈)  
 b. (お酒を) どうぞ飲んでしまってください。(飲み切るの解釈のみ)

ところで、次のような場合においては、「テシマウ」が用いられた (22b) は、やや押し付けがましく思われる。

- (22) (お酒があと少し残っている先輩のジョッキを見て、後輩が遠慮している先輩に促す場合)  
 a. 次を注ぐから、飲んじゃってください。

- b. #次を注ぐから、飲んでしまってください。

(22) の文脈で用いられた「テシマウ」と「チャウ」は、話者が相手に「お酒を飲み切る」という行為を促し、相手に行為を達成してほしいと考えていると解釈できる。スタイルの違いであるともいえるが、同じ文脈において、「テシマウ」が用いられている (22b) は押し付けがましく感じられるのに対し、縮約形「チャウ」が用いられている (22a) は、その押し付けがましが抑えられ、やや相手を気遣った発話のように感じられる。本稿では、(22a) のような例は、ポライトネスを表す表現だと考える。この考え方の妥当性は、「テシマウ」と「チャウ」が「召し上がる」(23)、「ご覧になる」(24) といった敬語との共起が可能かどうかという点から確認できる<sup>6</sup>。

- (23) a. (前略) ダイナミックにお買い物した後、がつつり召し上がっちゃってください。  
(食ベログ・ロコミ)<sup>7</sup>

- b. ?召し上がってしまってください。

- (24) a. (前略) ぜひ、映画を無料で1本ご覧になっちゃってください。

(個人ブログ)<sup>8</sup>

- b. ?ご覧になってしまってください。

敬語との共起関係を見ると、(23a) (24a) が (23b) (24b) より敬語との相性が良いことがわかる。「チャウ」が用いられた例は、相手に行為を促すうえに、選択の余地を与えるように感じられる。一方、「チャウ」が用いられた例は、一方的に相手にすすめるというよな話者の強い意志が感じられる。このように、「チャウ」は敬語と相性がよいという点で、「テシマウ」と明らかに異なると思われる。したがって、「チャウ」が用いられた表現は、ポライトネスを表すことができると言えるだろう。

## 5.2 ポライトネスを表す「チャウ」

ではなぜ、「チャウ」はポライトネスを表すのであろうか。3節で論じた「チャウ」が持つ独自のアスペクトの意味から考えれば、なぜ (22a) と (22b) に差が出てきたのかは、合理的に説明できると思われる。「チャウ」は、<行為の部分的達成>の解釈が認められたので、最後まで飲み切らなくても、とりあえず一口さえ飲めばそれでよいという含意が出てくる。<部分的達成>は、全体的達成より達成しやすいと考えられるため、「チャウ」が用いられることにより、ある行為をする時の抵抗感が少なくなり、相手に行為を促す場合は、全体的に表現を柔らかくする働きを持つようになると考えられる。

- (25) (体が温まる食材で作った味噌汁を紹介している)

- a. アナウンサー：毎日でも食べちゃって下さいね。

(TBS はなまるマーケット)

b. アナウンサー：毎日でも食べてしまってくださいね。

(26) (司会がお客さんに空席を案内する場合)

a. 司会：どうぞ座っちゃってください。

(個人ブログ)

b. 司会：どうぞ座ってしまってください。

(25) は、「体が温まるお味噌汁を毎日食べる」ということを視聴者にすすめている。こうした砕けた表現は、話し手と聞き手との間に親密感を築き上げる役割も果たしていると考えられるが、「チャウ」の部分的達成解釈によって、相手に選択の余地を与えるように感じられる。(26) も同じように、相手に動作の達成をしてほしい場合、(26a) のほうが相手への配慮が含まれている。これらの例を「テシマウ」に置き換えると、話者にとって都合のよいことを相手に促しているように感じられる。

以上の議論を合わせると、相手に行為を促す場合、話し言葉では「チャウ」のほうがよりフォーマルな形式である「テシマウ」より好まれることが観察された。「チャウ」は、行為の部分的達成の解釈を持つことで、全体の達成ではなく、とりあえず動作を部分的に達成すればよいという含意が出てくる。その結果、相手に選択の余地を与える、表現全体を和らげる機能を果たすと考えられる。ここでは、「チャウ」のポライトネス用法は、Traugott (2003) において言及されている間主観的意味への拡張が起こっていると言えよう。また、話者の感情・評価的意味(主観的意味)とポライトネスの用法(間主観的意味)は、それぞれアスペクト的意味と密接に関連している。

## 6 おわりに

本稿では、話者の感情・評価的意味や語用論的用法における「テシマウ」と「チャウ」の違いを記述し、それぞれのアスペクト的意味との関連性に焦点を当て、分析を行った。本稿の分析を通し、「テシマウ」は、アスペクト的意味と話者の感情・評価的意味が絡み合う複雑な表現であるが、二つの意味のあいだには関連性があり、前者が後者に対する動機付けとなっているということを示した。今後は、さらに「チャウ」の用法に関し、ジャンル、性別、年齢、方言といったパラメータを考慮に入れた考察を行っていきたい。

## 注

- 1 「テシマウ (チャウ)」は、基本的にアスペクト的意味を表す文法形式であると同時に、話者の感情・評価的意味も絡み合うことがあるので、明確に分けることができない。但し、本稿では、話者の感情・評価的意味をそのアスペクト的意味から派生したものと考えているので、両者を区別して記述を行なう。
- 2 寺村 (1984) では、「チャウ」は、「悲哀や後悔でなく、『しめしめ』という感じの、意外な事の成りゆきをよるこぶような場合に使われる (寺村 1984: 155)」と記述されている。
- 3 ただし、「テシマウ」と「チャウ」を区別せず記述がなされている。

- <sup>4</sup> 梁井 (2003) により、「プラス思考用法の「チャウ」は、出来事の生起に対し、話し手が「困る」等の負の感情を必ずしも抱かず、むしろ「好ましいものである」と捉えることを表す」と述べられている。揶揄用法とは、「観察時における他者の様態を揶揄することを表す」という用法である。談話用法とは、「文法的な意味はほとんどなく、談話の中で何らかの機能を果たす」という用法である。
- <sup>5</sup> お医者さんにお酒の注意をされても、一口飲んだ場合でも用いられるが、それは「一口飲む」が行為全体として解釈されているためである。
- <sup>6</sup> 敬語との共起の容認度は、Yahoo で検索した用例数によって判断を下した。「召し上がっちゃってください」8,940 件、「召し上がってしまってください」3 件。「ご覧になっちゃってください」4,590,000 件、「ご覧になってしまってください」0 件。検索日：2011/11/01。

<sup>7</sup> <http://u.tabelog.com/liz/r/rvwdtl/215023/>

<sup>8</sup> <http://twitter.com/#!/etourcojp/status/114645955562844161>

#### 参考文献

- 福島悦子・上原聡.2004.「丁寧体の会話における縮約形使用に関する一考察—日本語の母語話者と学習者の会話を比較して—」『国際文化研究科論集』12,東北大学大学院国際文化研究科,121-130.
- 藤井由美.1992.『「してしまう」の意味』『ことばの科学5』,東京:むぎ書房,17-40.
- 早瀬尚子・堀田優子.2005.『認知文法の新展開—カテゴリー化と用法基盤モデル』東京:研究社.
- 星野和子.2000.「「しまう」から「てしまう」へ—用法と意味の変容」『日本文学』93,東京女子大学,95-111.
- Hopper, Paul and Elizabeth Closs Traugott. 2003. *Grammaticalization*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 出口雅也.2003.「認知音韻・形態論とコネクションニズム」,吉村公宏(編)『認知音韻・形態論』,東京:大修館書店,155-193.
- 今井晴彦・石川慎一郎.2006.「縮約がもたらす構文の意味的・機能的変化—言語コーパスに基づく there is / there's 構文の研究—」『神戸大学国際コミュニケーションセンター論集』3,神戸大学,15-36.
- ジョン・R・テイラー・瀬戸賢一.2008.『認知文法のエッセンス』東京:大修館書店.
- 川瀬生郎.1992.「縮約表現と縮約形の文法」『東京大学留学生センター紀要』2,東京大学,1-24.
- 金水敏.2002.「時の表現」,金水敏・工藤真由美・沼田善子(著)『日本語の文法2 時・否定と取り立て』,東京:岩波書店,3-92.
- 金田一春彦.1947.「国語動詞の一分類」,金田一春彦(編)『日本語動詞のアスペクト』,東京:むぎ書房,5-26.
- 金田一春彦.1955.「日本語動詞のテンスとアスペクト」,金田一春彦(編)『日本語動詞

- のAspect』, 東京: むぎ書房,4-12.
- 工藤真由美. 1995. 『Aspect・テンス体系とテキスト』, 東京: ひつじ書房.
- 倉持保男. 2002. 「補助動詞「(～) シマウ」について」, 山田進等 (編) 『日本語意味と文法の風景』, 東京: ひつじ書房,289-300.
- 近藤裕子. 2000. 『「～シマウ」の意味・用法に関する一考察』 『国文学試論』 14, 大正大学,240-243.
- 森田良行. 1984. 『基礎の日本語 3』, 東京: 角川書店,131-138.
- 水谷信子. 1985. 『日英比較 話しことばの文法』 東京: くろしお出版.
- 守屋三千代. 1994. 「『シテシマウ』の記述に関する一考察」 『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』 6, 早稲田大学,49-70.
- 森山卓郎. 1988. 『日本語動詞述語文の研究』, 東京: 明治書院.
- 大場美穂子. 1999. 「日本語の補助動詞「しまう」の意味と用法」 『日本語学会第118回大会予稿集』.
- Ono, Tsuyoshi. 1992. The grammaticization of the Japanese verb *oku* and *shimau*. *Cognitive linguistics* 3.4: 367-390.
- Ono, Tsuyoshi, and Ryoko Suzuki. 1992. The development of a marker of speaker's attitude: The pragmatic use of the Japanese grammaticized verb *shimau* in conversation. *BLS*18: 204-213.
- 斉藤純男. 1991. 「現代日本語における縮約形の定義と分類」 『東北大学日本語教育研究論集』 6, 東北大学,89-97.
- 杉本武. 1991. 『「てしまう」におけるAspectとモダリティ』 『九州工業大学情報工学部紀要 (人文・社会科学篇)』 4, 九州工業大学,109-126.
- 杉本武. 1992. 『「てしまう」におけるAspectとモダリティ (2)』 『九州工業大学情報工学部紀要 (人文・社会科学篇)』 5, 九州工業大学,61-73.
- 鈴木智美. 1998. 「「～てしまう」の意味」 『日本語教育』 97, 日本語教育学会,48-59.
- 鈴木英夫. 1970. 「過去と完了—『—た』と『—てしまう』を中心として—」 『月刊文法』 3(2): 61-69, 東京: 明治書院.
- 高橋太郎. 1969. 「すがたともくろみ」, 金田一春彦 (編) 『日本語動詞のAspect』, 東京: むぎ書房,115-153.
- 高橋太郎. 2003. 『動詞九章』, 東京: ひつじ書房.
- 田中章夫. 2001. 『近代日本語の文法と表現』, 東京: 明治書院,641-660.
- 辻幸夫 (編). 2003. 『認知言語学への招待』 東京: 大修館書店.
- 坪井美樹. 2005. 「テ形接続形式と文法化」 『東京大学国語国文学会国語と国文学』 82(11), 至文堂,13-25.
- 寺村秀夫. 1984. 『日本語のシンタクスと意味 II』 東京: くろしお出版.
- 上原聡・熊代文子. 2007. 「認知形態論」, 『音韻・形態のメカニズム』, 東京: 研究社,153-207.
- 梁井久江. 2003. 「「—テシマウ」と「—チャウ」の相違」 『日本語教育学会春季大会予稿集』 67-72.

- 梁井久江. 2009. 「テシマウ相当形式の意味機能拡張」『日本語の研究』5(1), 日本語学会, 15-29.
- 山梨正明. 1995. 『認知文法論』東京: ひつじ書房.
- 山梨正明. 2009. 『認知構文論』東京: 大修館書店.
- 吉川武時. 1973. 「現代日本語動詞のアスペクトの研究」, 金田一春彦 (編) 『日本語動詞のアスペクト』, 東京: むぎ書房, 157-307.

#### 参考辞書・事典

- 『精選版 日本語国語大辞典』第2巻 東京: 小学館.
- 『新版 日本語教育事典』日本語教育学会 (編), 東京: 大修館書店.